

中前忠著「アジアは低成長を避けられるか」十字塔、日本経済新聞 2009年9月2日刊を読む

### アジアは低成長を避けられるか

1. 1980年代以降の米国経済に特徴的なのは債務の増大、家計の貯蓄率の低下、経常赤字の拡大である。金融機関のバランスシートの異常な急膨張を先頭に借金経済が加速した結果である。サブプライムローンの破綻を契機に、こういった金融膨張のメカニズムが壊れ、バランスシート調整が避けられなくなってきた。
2. リーマンショック後の最も象徴的な経済の展開は、米国の貿易赤字の縮小と中国の貿易黒字の急減である。米国の貿易赤字は月間 670 億ドルから 270 億ドルに 60 %、中国の黒字は 400 億ドルから 100 億ドルに 75 %減少している。米国の過剰消費の是正が続き家計の貯蓄率が回復し、中国の輸出が低下し続ければ、早晩、世界の主要な貿易不均衡は解消していくことになる。
3. 米国政府や連銀がいかに抵抗しても、30年近い借金経済がもたらしたバブルの崩壊という問題を、1年や2年で処理することはできない。調整が長期化することは、わが国がバブル崩壊後、いまだ経済を回復軌道に乗せ切れていないことをみても明らかだ。
4. 米国の経常赤字の解消が世界、とくにアジア経済にもたらす影響は大きい。97年のアジア危機以降 08年までの11年間に、世界の外貨準備は 1.7兆ドルから 6.8兆ドルに 5.1兆ドル増えたが、これをもたらしたのは、この間の米国の累計経常赤字 5.9兆ドルである。外貨準備増加の4分の3は途上国が占めるが、途上国はこの外準の増加を裏づけとして成長通貨を供給してきたのである。
5. 米国の経常赤字が解消してくると、こういった成長通貨の供給ができなくなってくる。これは対米輸出の増加が期待できなくなることと並んで途上国に極めて深刻な影響を及ぼす。アジアの時代だとか、新興国の時代だ、と浮かれてはいられないのである。金融ショックの本当の影響は来年以降に本格化するとみておくべきである。

### [コメント]

米国のサブプライムの崩壊を数年前から予測していた、中前国際経済研究所 代表中前忠先生の分析を正確に読み解き、将来に備えることが大事だ。

- 2009年10月29日 林明夫記 -